

病院整備計画の公募審査に関する質問票

- 黄色着色セルに入力してください。
※「担当者名」「メールアドレス」「回答」行に入力してください。
- 今回頂いた回答は委員に提供し、後日会議HPIに掲載します。
※担当者名とメールアドレスは非公表です。

保健医療圏	東部
応募医療機関名	医療法人社団 聖心会 十全病院
担当者名	
メールアドレス	

	委員名	応募医療機関名	質問	回答
1	西村委員	十全病院	脳卒中患者が中心と思われるが、回復期リハビリテーション病床での予定受入患者の疾患構成として、脳血管疾患・整形疾患・心疾患・廃用症候群それぞれの比率をどのように想定しているのか？	苑田会グループの回復期リハビリテーション病院での比率が、脳血管疾患60%、整形疾患30%、廃用症候群10%となっており、これらの比率とそう変わらないと想定しております。
2	西村委員	十全病院	獨協医科大学埼玉医療センター等と連携して、回復期入院機能が貴院の役割と認識したが、外来や健診についてははなしでよろしいか？	現在、当院にて加療中の患者様がおられるため、外来は継続しますが縮小する予定です。通院加療可能な患者様はできるだけ周囲の医院にお願いしたいと考えております。また、健診については、越谷市から依頼されている健診事業等は継続してその責務を果たしていきたいと考えております。
3	内藤委員	十全病院	この度の埼玉県東部地域の公募は819床のところ応募は977床となっており、すでに158床の過多になっています。今回越谷地域だけで新規・移転・増床等含めて60%を超える計623床の届け出がありました。すべて獨協医大埼玉医療センターを中心に東西南北配置されていますが、仮に希望通り増床できたら、それに伴う看護師等職員の確保はかなり厳しいものになります。当然近隣の医療機関の影響は計り知れません。患者の取り合いになるかもしれません。多くの新規・増床計画がだされたことで、医療従事者の採用計画、患者数、病床数などについて、再検討されるのでしょうか。	看護師等職員の確保について、増床移転の新病院は、越谷レイクタウン駅前(徒歩2分)に立地することから、武蔵野線沿線をはじめ広範囲からの職員募集が可能と思っております。紹介業者経由の地方からの入職者に対しては、寮を用意し、入職しやすく致します。苑田会グループの協力の下、グループ内職員の十全病院への異動による補充も視野に入れております。苑田会グループでは約900名の看護職員が在籍しております。また、苑田会グループのこれまでの看護学校や大学及び専門学校とのつながりから新卒者の入職者の確保に努めます。以上のような対応により、近隣医療機関様への影響には十分留意致します。患者様に関しても、現在のように近隣医療機関からの依頼やグループ内からの転院を中心とすることとして、周辺医療機関と患者様の取り合いになることがないように十分に留意していきます。
4	宗廣委員	十全病院	当院の退院支援看護師に聞くと、回復期リハビリ病院への転院はスムーズにいくとのことですが、今回のプレゼンテーションで、回復期リハの申請が複数の施設から上がっているのを聞いて、自施設での申請数はそのままの数が必要だと考えていますか。	当初、回復期リハビリテーション病床が不足していると考えておりましたが、11月7日の会議を踏まえ、地域の方々の声に耳を傾け、地域に貢献できる医療機関でありたいとの考えから、回復期リハビリテーション病床を地域包括ケア病床に変更も考えております。
5	原直委員	十全病院	回復期リハビリ病床78+転換分について:県の定量分析ベースでは東部地域の必要数は1579床ではなく75床となっている。また、現在、対人口10万人当たり81.5床と突出した病床を持っている地域であるにもかかわらず、当該病床を大きく増床申請する理由を教えてください。	当初、急性期医療機関からの意見として、回復期リハビリテーション病床への転院が滞り、救命救急医療等の受け入れが困難になっているとお聞きしておりました。そのため当院も現在はない回復期リハビリテーション病床を導入し地域医療へ貢献すべきと考えておりました。しかし、その後回復期リハビリテーション病床は充足しつつあるとのことですので、回復期リハビリテーション病床を地域包括ケア病床に変更も考えております。
6	原直委員	十全病院	回復期リハビリ病床78+転換分について:人材の件。大きく増床するという事は理学療法士を多く迎える必要があります。現時点でもこのエリアでは多くの理学療法士が活躍中であります。人材雇用のことも含め、地域医療のバランスを崩す可能性を危惧しますが既存医療機関からの人材流出の無いような採用計画となっておられるのでしょうか。	理学療法士等セラピストの採用については、苑田会グループ(回復期リハ病院3病院)への大学及び専門学校(24校)からの実習生の受入れ(年間約120名)により、毎年70名前後の新卒者の採用実績があります。また、令和4年4月現在、苑田会グループでは約520名のセラピストが在籍しております。このエリアへの折込広告等を出さずに、苑田会グループからのセラピストの異動及び新卒者の紹介により、既存医療機関からの人材流出が無いように致します。
7	原直委員	十全病院	医療従事者の採用計画について:地域に迷惑をかけずとの計画をうたわれているが、それを目指しながらうまく行くのでしょうか。これまで越谷市内でも人材不足が続いています。その状況下において、既存医療機関の人材不安を脅かすことなく78床増床分の職員確保は困難を極めませんか。既存医療機関からの看護師・職員の応募に関しては採用を見合わせるという考えで理解してよろしいか。	職員の採用計画について、増床移転の新病院は、越谷レイクタウン駅前(徒歩2分)に立地することからホームページ・募集広告・紹介業者等を活用し、武蔵野線沿線をはじめ広範囲からの職員募集が可能と思っております。紹介業者経由の地方からの入職者に対しては、寮を用意し、入職しやすく致します。苑田会グループの協力の下、グループ内職員の十全病院への異動による補充も視野に入れております。苑田会グループでは約900名の看護職員が在籍しております。また、苑田会グループのこれまでの看護学校や大学及び専門学校とのつながりから新卒者の紹介による入職者の確保に努めます。以上のような対応により、既存医療機関様への影響には十分留意致します。
8	田中委員	十全病院	会議資料3の(5)医療従事者で「確保予定の人員」欄は、「増員となる人員」を記載するものとなっており、「確保状況・確保策、確保スケジュール」に記載された内容に合致するはずですが、合致していません。これは、「確保予定の人員」欄に「増員後の人員数」を記載してしまっているからであると思われしますが、如何でしょうか？	(5)医療従事者「確保予定の人員」についてはご指摘のとおり、「増員後の人員数」を記載しておりました。